



奈良町にぎわい通信

Vol.4

二〇一五・八月号

発行
奈良町
にぎわいの家





倍巖良明師による
地藏盆講話。



七夕語り・絵話をスタッフが朗読。



オリジナル二十四節気短歌講座。
作者で歌人の喜多隆子氏の解説。



恒例の町家講座。
上野邦一氏による「奈良町の成り立ち」

7月のイベント・来館のにぎわいから



かまどで
火吹き中。

夏休み！子どもパワー全開！



親子で
オバケ作り。
なかなかの力作が！



お地蔵様の話

(7/20 地蔵盆講話より)

融通念仏宗 法徳寺 倍巖良明

・只今修行中

菩薩さんは、悟りを開き完成された人格者(仏・如来)になるために努力(修行)しています。中でもお地蔵様と観音様は、すでに仏になれるだけの修行をおさめたのに、救いを求めている人々の為あえて仏にならない(成仏しない)道を選ばれました。人々から人気を集める、庶民信仰のいわば二大スターです。

・56億7千万年

私たちの世界には、私たちを導いて下さる仏様が必要です。しかしお釈迦様が約2500年前に亡くなられ、次に弥勒如来様が出現して下さるまで56億7千万年という時間がかかります。その間私たちの世界には仏様がおられない「無仏」の時代を迎えています。その間仏様に代わって私たちを導いて下さるのがお地蔵様なのです。

・弱い者の味方

幼くして亡くなった子供たちは、親や周りの人たちに大きな悲しみを与えます、その「業」の為に三途の川を渡れず、賽の河原で鬼たちに苦しめられます、そんな子供たちにやさしく手を差し伸べて下さいます。また私たちは「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天」という「六道」の世界を経巡っています(輪廻)。そんな迷いの世界にいる私たちを導いて下さるのがお地蔵様(六地藏)です。

・「ならまち」のお地蔵様

奈良時代の怪僧「玄昉」が開いた福智院には2,7mの大きなお地蔵様がおられます。珍しい石仏龕(せきぶつがん)のお地蔵様がおられる十輪院。8月に地蔵盆で賑わう元興寺。毎年7月に衣を新調される裸地蔵の伝香寺。等々「ならまち」にはたくさんのお地蔵様がいらっしやいます。

奈良町にぎわいの家では、二十四節気オリジナルスタンプと節気ごとの歌で皆様をお迎えします。

短歌...喜多隆子(歌人・ヤママユ編集委員)／書...逢香(奈良教育大学)

サリサリサリかき氷旨し

すこやかに汗して励む大暑の今日も

暑さ極まる中、かき氷をいただき、夏らしい汗をかきながら、今日も励む。「サリサリサリ」という音感が楽しく、氷の表情がよく見える擬音語が、とてもよく利いたお歌。夏は暑いものと、汗をかき、日々の生活に前向きな気持ち、大暑という言葉に比例する元気な歌。

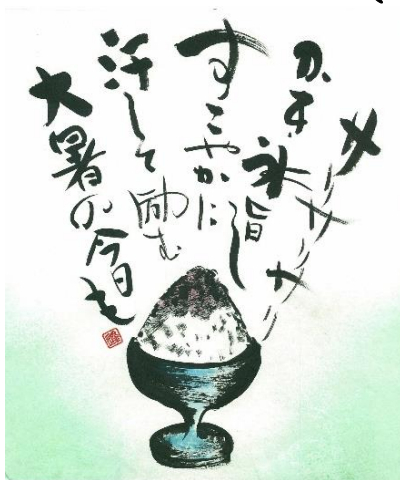
さあ、今日も一日、私たちも汗かいて時に「サリサリサリ」いたしましょう。

奈良町にぎわいの家

二十四節気

オリジナルマーク「大暑」

デザイン・金田あおい



蔵・おばけ展示中! 8/18まで

7/26、子どもたちでおばけを作りました。古い道具の形をヒントに作ったお子さんも。一つ目のかぶり物はお客様にも好評で、思わず、自分でかぶって、写真を撮られる方も。昔の道具と子どもたちの造形のコラボ、お楽しみ下さい。

おばけに変身中→



台湾からの
←お客様。

事務局だより

2015
8月号

五感で味わうことから

事務局長 藤野正文

奈良町にぎわいの家では、二十四節気を運営コンセプトにしています。が、いまは夏至が過ぎたと思ったら早くも立秋ですね。

日常生活や仕事、政治・経済、海外に関係する情報を新聞、テレビ、ネット、メールを駆使して、情報把握してともかく頭を巡らす？という現代の情報社会に巻き込まれて、情報過多の日常生活を過ごしていると、自然の移り変わりをを感じる余裕も無くしてしまいそうですね。

「気が付いてみると、われわれは物質文明こそ栄えているが、心のゆたかさや安らぎのない、奇妙に空虚な事態に直面しているのだから」と中野孝次さんが20年以上も前の著書「清貧の思想」で書かれています。

にぎわいの家では、来訪者が日常生活から離れ、自然と共に生きてきた、自然を楽しんできた日本の「安らぎのあるゆたかな暮らし」をほんの少しでも五感で味わってもらえな

いかと試行錯誤。
町家の軒先や床の間に生けられた花々。水槽で涼しげに泳ぐメダカ。耳をすませば聞こえる蟬の声、鈴虫のこえ、風鈴の音。かすかに匂う夏の青葉。縁側をとり抜ける風。土間のかまどで燃える薪の匂いと音・

立ち上がる煙りと水蒸気。

来訪者に五感を通して感じてもらえるには、わかりやすい工夫・読み替え・アイデアがあるだろうと事務局で知恵を絞っています。



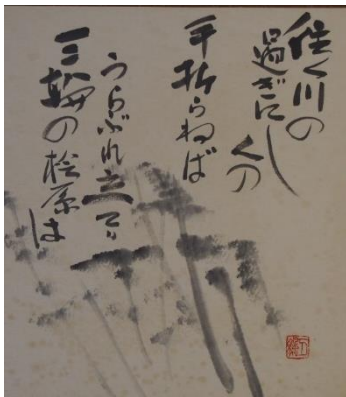
通り庭の鈴虫。良い声を聞かせてくれています。

岡橋萬帆 作品紹介

万葉画家、岡橋萬帆氏の色紙、他、寄贈いただきました。万葉を題材に多くの日本画を描かれ、奈良県立万葉文化館はじめ、各施設にその作品が収蔵されています。奈良の四季を詩情のある、独自の世界で表現した「萬帆ワールド」折にふれ、紹介していきますのでどうぞお楽しみに。

岡橋萬帆（おかはし・ばんぽ）

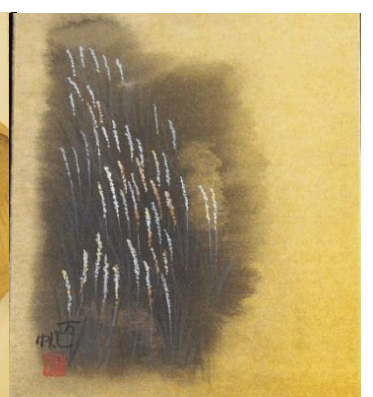
一九二四年生まれ。二〇〇一年没。橿原市中曾司町生まれ。画家。大和万葉歌をテーマとした作品で、数々の賞を受ける。高山辰雄（文化勲章、芸術院会員）に師事。磐余神社に万葉歌碑建立。「岡橋萬帆画集」他。



「往く川の過ぎにし人の手折らねば
うらぶれ立てり三輪の桧原は（万葉集）」



「つゆくさ 朝露」



「万葉の花 ちがや」

奈良町にぎわい通信vol.4

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/

イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。是非、ご参加ください。



ぼくのおうちはここ。

メダカさん、暑さに負けず泳いでいます。玄関が暑い時は中におりますのでご覧くださいね。